



木は、手をかけるほど
育ちがよくなる子どものように。

颯爽たる風貌である。思わず、「お、カッコいい！」と小声でつぶやいてしまう。上から下まで紺ずくめ。労働着なのにエレガントで、しかも凛々しい。仕事への自信と誇りと、そして甘えを寄せつけない厳しさとをさりりと感じさせて。

林原泰子さんは、山女である。登山を趣味とする、ということではなく、山の木や花の世話をするプロである。もちろん、山だけがフィールドではない。まちの街路樹も面倒見る。

中本産業に入社したのは平成九年だった。「それまでは、主婦業しかしていません。ずぶの素人からのスタートです」。入社当時、ガーデニングが流行っていた。もともと、花や緑が好きだったから、わりあい簡単な気持ちで携わった。造園の仕事が次第に森林整備として森へ山へと入りこんでいった。

「とてもやりがいがあります。木は、可愛がり、手をかければかけるほど育ちがよくなる子どもと相對しているようです」日々、いたって健康。その秘訣はといえば、

「ストレスを溜めないこと。それと、そうね、晩酌かしら」

琴浦町の船上山の、クヌギやコナラなどの木々の害虫駆除にも中心になって関わっている。船上山は平安時代から山岳仏教が栄え、大山、三徳山とともに伯耆三嶺と呼ばれてきた低山。修験道の道場でもあった。あ、そういうえばその風貌、どこか修験者ふう。

中本産業
林原泰子



ゆ
う
ゆ
う、
ゆ
り
は
り
ま